

2 章 別府校区



2章 別府校区

1. 塚地蔵

【所在地】城南区別府 6 丁目 9

【概要】『別府郷土史研究』第 1 集によると、別府小学校第 4 代校長の在任当時(昭和四十五・四十六年)、職員・児童の間で病気になる人が出たり、事故が立て続けに起きたりした。その結果、こうした不幸の出来事が元々学校敷地内にあって所在がわからなくなっていた「塚」(この塚は、祟りがあるから入ってはいけないと厳しく言われていた)と結びつけて考えられた。改めて校内を探すと半分土に埋もれた石碑が発見された。近隣の寺院にこの碑の供養をお願いしたところ、供養を行った寺院の院主により本来この碑は黒田の家臣を祀るものであったのに「戌神」として祀ってあったために成仏できない、と告げられた。その後、供養のため地蔵堂が学校関係者らを中心に建立された、という(福岡市別府公民館 1980 : 24・27)。

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第 1 集 別府公民館 p.24・27

福岡市別府公民館 2004『別府公民館 40 周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.12・15



塚地蔵。後方は別府小学校(2013.2.11 撮影)

2. 別府薬師如来

【所在地】城南区別府 1 丁目 19-21

① 薬師堂

【概要】『別府の歴史見聞録』によると、「別府の薬師様は楚(祖)原の薬師様と共に昔から有名で信者も多く昔は、秋祭りの日には遠くから参拝に来る信者も多くお堂前の広場の両側には出店も設営されて商いをしたということである」(藤村 1994 : 9) という。また、「昭和二十年の敗戦後しばらくの間は荒れ果てたままになっていたが世情の安定を見るに至りそろそろと参詣者の影も見られるようになり加うるに地元信者の御配慮により屋根瓦の葺き替えも行われその後更に御堂内部の改修も実施され屋内も広くなって見違えるように立派になった。この間に薬師様本尊

のお姿も金色に塗り替えられ、その外お大師様を始めお不動様・お地蔵様・お阿弥陀様等も合祀され立派な仏閣となった。昭和五十七年四月以前の屋根瓦は現在の銅板葺に改修された」(藤村 1994 : 11) とある。

なお、2013 年現在も地区の世話人を中心に毎月 8 日にお祭りがなされている(2013 年 3 月世話人に確認)。

【境内祠堂等】

薬師如来が祀られている薬師堂には、他にも不動明王(台座に「昭和四十二年三月吉日」の銘)などが祀られている。また、薬師堂入口付近に②別府地蔵尊が祀られている。他、③「別府薬師如来」石標、④不動明王建立者芳名碑、百度石など。

【参考文献】

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立 30 周年記念実行委員会 p.9・11、初版 1982 年。

福岡市別府公民館 2004『別府公民館 40 周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.20・21



奥が薬師堂。境内入口向かって右に③「別府薬師如来」石標(2012 年 8 月撮影)

②「別府地蔵尊」の堂

【概要】薬師堂の入口付近にある。堂には「別府地蔵尊」と書かれ、地蔵尊が祀られている。



中央が「別府地蔵尊」、奥が薬師堂(2013.2.11 撮影)

③「別府薬師如来」石標

【概要】別府薬師如来境内入口に向かって右側にある。

【銘文】

〔表〕別府薬師如来

〔裏〕昭和五十七年五月吉日建立

信者一同

題字 福岡市長 進藤一馬書

④不動明王建立者芳名碑

【概要】薬師堂の参道入口付近にある。①薬師堂に祀られている不動明王の建立時のものと推察される。計 63 名の名前が刻まれている。

【銘文】

〔表〕

不動明王建立者芳名碑

发起人 佐伯タカエ 藤村ツル 宇佐美セキ
藤村ハスエ

藤村源路 藤枝博文 古川初雄 藤村嘉市 帆
足武雄 中村半造 谷崎照繁 平川秀雄 福島
徳 猪口志初吉 池田長谷蔵 本田廣男 松田
幸吉 藤田明二 高橋清五郎 藤村キク 高田
千代 橋本イト 吉戒昭子 古川スガ 津上シ
ズエ

藤村ツイ 藤村チヨ 樋口信世 高鍋マサ 後
藤タマ 江見リン 江浜アキ 藤村ツル 藤村
セイ 廣崎トミ 藤村トミ 天野ユキ 久芳ト
リ 藤村コシマ 城丸恭子 藤村喜久代 勝村
キクエ 橋本富代 藤本フジヨ

大野きみ子 藤村五重 松井秋子 藤村智恵子
藤村アサノ 藤村和子 藤村香代子 島末ミサ
コ 吉田知子 竹末弘子 三角トメ 三角フサ
青木秀之 鐘ヶ江きよの 佐伯サカエ 佐伯ト
ミコ 藤田ヤスエ 工藤ミヨシ 石橋博香



不動明王建立者芳名碑。写真向かって右方に①薬師堂（2013.2.11 撮影）

3. 庚申

【所在地】城南区別府 1 丁目 4-32 個人宅前

【概要】『福岡市の庚申塔』によると、材質は玄武岩、法量 89.0×29.0（福岡市教育委員会編 1993：109）。

【銘文】〔表〕庚申

【参考文献】福岡市教育委員会編 1993『福岡市の庚申塔』福岡市教育委員会（p.49、p.109、該当 NO.129、城・13）



庚申。別府 1 丁目 4-32 の庚申（2012 年 10 月撮影）

4. 別府天満宮

【所在地】城南区別府 1 丁目 9-39

①別府天満宮

【概要】境内地は、「天神森」と呼ばれている。

天満宮の祭神には、菅原道真および埴安神が祀られている。『別府郷土史研究』第 1 集には、「天神さまは学問の神であり、子どもが好きであられる」ため、5 月 5 日（子どもの日）に祭日が定められたとされ、ほかにも 7 月 25 日に手べんとう、かぼちゃの煮しめなどでおこもりをしていたという（福岡市別府公民館 1980：29）。

【境内祠堂等】

②五穀神、③四通八達記念碑のほか、鳥居、旗竿台一対（「鳥飼八幡宮御遷宮記念」「昭和十一年十月十五日」「奉献 別府町氏子中」）など。

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第 1 集 別府公民館

福岡市別府公民館 2004『別府公民館 40 周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.8-11

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立 30 周年記念実行委員会 p.12-18、初版 1982 年。



天満宮（奥の祠、2013.2.11 撮影）

②五穀神

【概要】天満宮が祀られている祠の北側にある。『別府郷土史研究』第1集には、鳥飼八幡宮蔵の記録から、大正十二年六月六日に五穀神社合併出願がなされ、同年十一月二十六日に許可が下りたことがわかったとある。また、合祀される前は、「草ヶ江高等小学校の西側の丘の上に在り。まわりに松の木四、五本あり、生徒たちの遊び場となっていた」という（福岡市別府公民館 1980：80）。なお、草香江高等小学校の場所については、「もと別府原の最北端の高台にあった草ヶ江小学校（大正八年廃校）」（藤村 1994：15-16）という。

【銘文】〔表〕五穀神

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第1集 別府公民館 p.28-30

福岡市別府公民館 2004『別府公民館 40 周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.8-11

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立 30 周年記念実行委員会 p.15-16、初版 1982 年。



五穀神（2013.2.11 撮影）

③四通八達記念碑

【概要】天満宮境内（天神森）入口の石段を上った付近にある。以前は東蓮寺道にあったが（場所については「5. 四通八達記念碑旧在地」を参照）、1982（昭和五十七）年に現在地へ移転した。

以下、『別府の歴史見聞録』から抜粋。

「石段の右側にある「四通八達」の碑は大正十年当地別府発展のために実施された耕地整理完了後に建立されたもので最初は東蓮寺道、現在の増田歯科医院前の道端（別府団地入口の角）にあったものを交通事情の緩和と地面振動による碑転倒の危険防止のため、当町の役員会に図りその同意を得て移転されたものである。この記念碑は昔耕地整理の行われた場所の方に向けて立てられている」（藤村 1994：17-18）。

なお、同書には「記念碑移転の理由と顛末概略」として、本の著者であり移転当時の町内会長であった藤村勝丸氏によって「一、移転の理由」と「一、移転の顛末」が記されている（前掲書 1994：79）。

【碑文等】

*1 四通八達碑

〔表〕

四通八達

世運ノ進否ハ一ニ交通ノ利不利ニ在リ 故ニ一郷ノ繁栄ヲ期セント欲セバ道路ノ四通八達ヲ以テ要トス 我別府ノ地ハ鳥飼ノ一部ニシテ福岡ノ市外ニ僻在セリ 大正八年十一月一日鳥飼邨ヲ福岡市ニ編入シ尋テ高等学校新設アルニ及テ漸ク本区発展ノ曙光ヲ睹ル 而シテ本区ノ道路ハ猶僅カニ東西ニ通ズル一幹線アルノミ餘他ハ皆縄径ナリ 而モ高低屈曲シテ交通便ナラズ加之東蓮寺ノ廢墟ニハ墓石点在竹樹叢生シテ蛇蝎ノ棲息スル所タリ 里人甚之ヲ難ム 故ニ有志相謀テ耕地ヲ整理シ且ツ南北ニ通スル新道ヲ開鑿シ以テ本区ノ発展ニ資セントス

大正九年九月一日土工ヲ興シ全十年九月三日竣成ス 名ケテ東蓮寺道ト稱ス 面積元一町八反餘部ヲ開拓シテ新道延長二百四十餘間ト舊路改修二百六十餘間及ビ耕地一町九反餘歩トナス 経費ハ地代金八千三百四十円工事費二千三百五十円ナリ 是レ畜ニ一郷ノ利便ノミナラス附近モ亦大ニ其ノ慶ニ頼ル是ニ於テ乎本区ノ繁盛期スベキナリ予発企者ノ需ニ應シテ之カ概畧ヲ記シテ以テ之ヲ不朽ニ伝フ

大正十年十月一日

福岡学園長 戸田大猷 記并書

〔裏〕

土地提供者

百三十四坪 藤村藤太郎

百二十六坪 橋本健太郎

八十八坪 上野端彦

七十七坪七合 三角松次郎

六十二坪六合 藤村源路

五十一坪八合 藤村寛一

三十七坪四合 藤村弥三郎
三十五坪一合 藤村好美
二十九坪 武内晴好
二十六坪 藤村貞文郎
二十二坪八合 草野金吾

二十二坪六合 樋口廣
十六坪八合 藤村作次郎
十五坪五合 藤村格兵衛
十一坪二合 藤村太郎
十坪 讃井勘三郎
六坪八合 岡村辰巳
五坪 藤村芳次郎
五坪 讃井亀吉
四坪七合 西本トキ
四坪 大野久五郎
四坪 藤村タセ

合計七百九十六坪

発企者 藤村源路 橋本健太郎
委員 藤村好美 藤村作次郎 橋本健太郎
東貞太郎 藤村源路 三角松次郎
設計者 福岡市土木技手 朱雀平太
全 助手 庄野新太郎
受請人 岩崎元次郎
実行者 藤原勝太郎

*2 副碑（四通八達碑前）

〔表〕

東蓮寺道より移転 昭和五十七年二月

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第1集 別府公民館 p.15・16

福岡市別府公民館 2004『別府公民館40周年記念誌—別府のあゆみ』福岡市別府公民館 p.83・84

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立30周年記念実行委員会 p.17・18、p.76・79、初版1982年。



四通八達記念碑（2013.2.11 撮影）

5. 四通八達記念碑旧在地

【所在地】城南区別府1丁目8・2（別府グリーンビルの北側路上）

【概要】別府天満宮境内にある四通八達記念碑がもともとあった場所に額碑が取り付けられている。別府天満宮へは、1982（昭和五十七）年に移転した。『別府郷土史研究』第1集では、移転前のまだこの場所にあった当時の写真を見ることができる（福岡市別府公民館 1980：16）。

【参考文献】

福岡市別府公民館 1980『別府郷土史研究』第1集 別府公民館 p.15・16

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立30周年記念実行委員会 p.17・18、p.76・79、初版1982年。



四通八達記念碑旧在地（額碑、2013.2.11 撮影）



交差点の北側から南側方面の様子。中央左付近に額碑がある（2013.2.11 撮影）

6. 龍王神社

【所在地】城南区別府 1 丁目 9

① 龍王神社

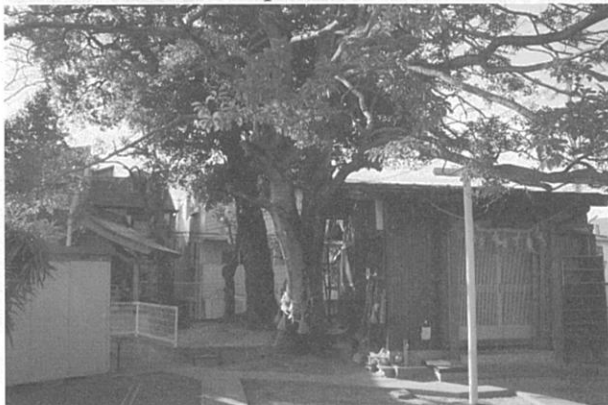
【概要】以下、『別府の歴史見聞録』から抜粋。
「八龍 天神森の南方百米余の地点にわが別府では昔から「八龍」と称する所がある。榎・^{おうち}樗・^{なのみ}なのみ（くろがねもち）など数本の大樹があり、その大樹の木蔭に小さな石の祠が祭られていた。参拝者の人影も殆んどなくこの場所は荒れに荒れていた。われわれの幼年時代（明治末期から大正のはじめ）にはこの中に大きな松の木もあったが、この松の木も遠い昔に枯れて今はその跡影もない。（中略）わが別府の八龍神も靈驗あらたかということで昨年（昭和五十六年九月※）信者の浄財によって新規に大普請が行われ、小さな石祠が現在の神殿に建て替えられ真新しい立派な龍王神社に出来上がったのである」（藤村 1994：18-21）

※『別府の歴史見聞録』の初版が、昭和五十七（1982）年のため。

【境内祠堂等】②稲荷社、③注連掛石、④百度石など。

【参考文献】

藤村勝丸 1994『福岡市別府公民館創立三十周年記念誌 別府の歴史見聞録』別府公民館創立 30 周年記念実行委員会 p.9-11、初版 1982 年。



龍王神社。写真に向かって右の建物が①龍王神社、左奥に②稲荷社（2013.2.11 撮影）

② 稲荷社

【概要】八龍神社境内に祀られている。



稲荷社（写真手前が八龍神社の社殿、2013.3.11 撮影）

③ 注連掛石

【概要】①八龍神社と②稲荷社のちょうど間にある。



注連掛石（奥の建物が八龍神社の社殿、2013.3.11 撮影）

④ 百度石

【概要】境内東側にある。

【銘文】[表] 百度石、[裏] 奉獻昭和五十七年十月 青木秀志



百度石（2013.2.11 撮影）